

<自由論題>

イノベーションを促進するクラウドファンディング

—マレーシアにおけるスタートアップ支援策の考察—

姜理恵(光産業創成大学院大学)

本研究の目的は、マレーシアにおけるクラウドファンディングの利用実態を明らかにすることで、わが国市場におけるクラウドファンディングの新たな展開を検討する際のインプリケーションを引き出すことである。

個人、ベンチャー・中小企業の新たな資金調達手法として、クラウドファンディングが急速に広まっている(姜,2018)。これは、わが国市場のみならず世界的な動きであることは周知の事実である。それに伴い、クラウドファンディングに関する研究も増加の一途を辿っている。世界の学術研究を網羅する Web of Science (クラリベイト・アナリティクス社提供) でクラウドファンディング研究の論文数を確認したところ、2012 年時点で僅か 12 本だったものが、21 本(2013 年)、33 本(2014 年)、92 本(2015 年)、121 本(2016 年)、177 本(2017 年)、そして、2018 年 8 月時点で 143 本と、直近 3 年で急増していることが分かる。今回の研究は、クラウドファンディング研究の新たな蓄積にも貢献するものと考えられる。

本研究では、アセアン諸国で最初にクラウドファンディングに関する独自の法的枠組みを持ったマレーシアの動きに注目する。同国では、起業家精神溢れる若者達のスタートアップ企業の資金源の一つとしてクラウドファンディングが活用されている。しかし、同国における法的枠組みは株式型クラウドファンディングのみに焦点が当たっており、若い経営者達が好む寄付型・購入型クラウドファンディングの促進に関する関係当局からの支援はほとんどないことが指摘されている(Mokhtarrudin, A et al. 2017)。本研究では、若い経営者達の創業前の資金ニーズに関して定量的に調査した先行研究(同上,2017)を中心に引用しながら、マレーシアにおけるクラウドファンディングの利用実態を考察していく。

※本研究は、日本証券奨学財団(平成 29 年度)より研究調査助成金を受けている「アセアン主要国及び日本のクラウドファンディング制度と市場成長の可能性に関する研究調査」の一環である。

※※引用文献の詳細は大会当日の報告資料に記載する。